

実習日：平成 29 年度第 I 期 7 月 5 日  
実習先：大分市医師会立アルメイダ病院  
大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年  
氏名：手嶋遼一

大分ゆふみ病院での実習内容は朝のカンファレンス（夜勤スタッフから日勤スタッフへの申し送り、入院患者さんについて、亡くなった患者さんに黙祷など）、院内見学（ホスピス病棟と一般病棟の違いを確認）、お見送り、注射薬の取り揃え、服薬指導の練習（フェントステープの使用方法について）、麻薬についての講義（麻薬の取り扱い方や譲受証の書き方など）、院長先生講義を受けました。

院内見学の際に、部屋を見せてもらいました。有料部屋は 5400 円の部屋と 10800 円の部屋があり、両方ともいい感じにゆったりとすごせそうでした。特に 10800 円の部屋は畳とソファがついていたため自分がもし入院するんだったら、こちらの部屋にしようと思いました。しかし、この金額はご飯も含めての金額なのかということが気になりました。

お見送りのときは、一般の病院などと違い正面玄関から送り出していて最後までお辞儀をしていた事が印象に残っています。亡くなった方の顔は穏やかな表情をしていた為、苦しんで死んだ訳ではなかったのかなと思いました。

患者さんと話す機会があったため色々話をしていましたが、本当に病気なのかなと思ってしまうぐらい元気に話をしていたため大分ゆふみ病院で働いている皆さんが病気に対しての痛みのケアや心のケアをしっかりとしているんだなと思いました。

麻薬の廃棄には麻薬廃棄届、調剤済み麻薬廃棄届、事故届があり麻薬を廃棄するには普通に捨てるのではなく届出をしなければならないということを学びました。

今回の実習を受けて患者さんに対して痛みのコントロールをすることで患者さんの不安や悩みを少しでも解消できるのではないかと感じました。